

2012年	海外雑誌名	発行年月	タイトル(日本語訳)	記事の内容
6	I.F.W.	2012.2	バージニア港がグリーンな船に報奨金	バージニア・ポートオーソリティは係留中に低硫黄燃料を使用する外航船に報奨金を出すことにした。また荷役中に燃料を焚かない外航船にも報奨金を出している。
5	I.F.W.	2012.2	APMターミナルズはMaerskの輝ける星	AP Moller Maersk社の子会社であるAPMターミナルズ社は2011年に同社史上最高の業績を達成した。新たに5港湾でターミナルのオペレーションを行う権利を獲得しターミナル・オペレーションの世界展開を、さらに前進させた。
4	I.F.W.	2012.2	Maersk海運の収益は火の車	Maersk海運のコンテナ事業は2011年に赤字となっているが、この状況は2012年も好転しないであろう。これは船腹過剰による運賃の低下によるものである。2012年の海上コンテナの需要はアジア・ヨーロッパ航路において減少するが南北航路における需要の増加がこれを補い全世界では4～6%増加するであろう。
3	I.F.W.	2012.2	コンテナの全数スキャンについての米国政府動向	米国政府および下院委員会における貨物コンテナの100%スキャン実施に関する動向を紹介している。9/11法で定められている2012年7月からの実施について疑問符が示されており2014年からの実施となる可能性がある。
2	I.F.W.	2012.2	London GatewayがFelixtoweに対する優位性を宣伝	2013年に開業する予定の新ターミナルLondon GatewayがFelixstoweよりも効率的なサービスを提供すると説明した。
1	I.F.W.	2012.1	NZ沿岸で座礁したコンテナ船Renaの船尾部が沈没	10月5日にニュージーランド沿岸で座礁したコンテナ船Rena(47,000トン)の船体が二つに折れ船尾部が沈没し始めた。コンテナおよび油の流出があり海岸でニュージーランド最大の環境汚染が発生している。

2011年	海外雑誌名	発行年月	タイトル(日本語訳)	記事の内容
40	C.I.	2011	SHARAJAH(UAE) 2010コンテナ取扱量世界第39位	UAEのSharjah港は2010年にコンテナ約3百万TEUを取扱い世界コンテナ港湾TOP100の第39位に位置した。同港はGulfTainer社により運営されている。同社はSharjah港の成功をもとに事業を世界に展開しつつある。
39	C.I.	2011	TANJUNG PERAK(SURABAYA) 2010コンテナ取扱量世界第38位	インドネシアのスラバヤ港は2010年に約3百万TEUコンテナを取扱ったが激しい渋滞に見舞われた。その原因は取扱能力の不足であり水深が十分でないことが船社の不満となっている。
38	C.I.	2011	MANILA 2010コンテナ取扱量世界第37位	マニラ港は2010年に3.3百万TEUコンテナを取扱い、世界第37位のコンテナ港湾となった。同港のManila International Container Terminalは、おおよそ、その半分を取扱い混雑解消のため岸壁や荷役機械に投資を行っている。
37	C.I.	2011	横浜 2010コンテナ取扱量世界第36位	横浜港のコンテナ取扱量を紹介している。2010年のコンテナ取扱量および対前年比、コンテナ・ターミナルの拡張事業が説明されている。
36	C.I.	2011	嘗口 2010コンテナ取扱量世界第35位	中国の港湾嘗口港のコンテナ取扱を紹介している。2010年のコンテナ取扱量および対前年比コンテナ・ターミナルの拡張事業が説明されている。
35	I.F.W.	2011.12	Maersk海運のCEOが交代	Maersk海運のCEOがKolding氏よりSkou氏に交代する。Skou氏は就任のコメントで業界の再編成が必要であることMaersk海運の経営方針に変わりはないことなどを述べた。
34	C.I.	2011	フェリックストゥ 2010コンテナ取扱量世界第34位	英国最大のコンテナ港湾Felixstowe港を紹介している。2010年のコンテナ取扱量および対前年度比コンテナ・ターミナルの拡張事業が説明されている。
33	C.I.	2011	ジェッタ 2010コンテナ取扱量世界第32位	2010年取扱量による世界コンテナ港湾TOP100で第32位に位置したジェッタ港のコンテナ貨物およびターミナルの動向を簡単に紹介している。
32	I.F.W.	2011.12	ハッチソンがマースフラクテの処置でオランダ大臣に猛反発	ロッテルダム港では北海を埋め立ててマースフラクテ2を建設中である。ロッテルダム港湾当局がマースフラクテ1にあるECT社のターミナルの利用者である船社にマースフラクテ2にターミナル用地を割り当てたためにECT社の親会社であるHutchison Port Holding社が反発した。
31	C.I.	2011	連雲 2010コンテナ取扱量世界第29位	2010年取扱量による世界コンテナ港湾TOP100で第29位に位置した連雲港を簡単に紹介している。
30	I.F.W.	2011.12	大型クレーン(24列対応)がFelixstowe港の新戦力に	英国最大のコンテナ港湾Felixstowe港で整備されている第8,9バースに世界最大のデッキ上24列積載のコンテナ船に対応した世界最大のコンテナクレーンが納入された。このバースを英国運輸大臣が視察し満足の意を表明した。
29	C.I.	2011	釜山 2010コンテナ取扱量世界第5位	2010年のコンテナ取扱量で世界第5位のコンテナ港湾となった釜山港について取扱量の動向、釜山新港の現況、釜山港の目標などについて説明している。
28	I.F.W.	2011.12	MSCとCMA CGMがコンテナ船の配船における提携を強化	コンテナ船社の第2位と第3位のMSC社とCMA CGM社の提携が発表された。その概要を取材した記事である。
27	I.F.W.	2011.11	日本の大手コンテナ船社は合併するか	日本の大手コンテナ船社の合併アイデアについての商船三井の社長、武藤氏の発言とアナリストLewis氏の見解が収録されている。
26	The New York Times	2011.09.06	海上コンテナの功労者Keith Tantlinger氏逝く	海上コンテナの隅角部の金具と固定装置を考案したKeith Tantlinger氏の逝去を伝え、グローバルイゼーションにおける同士の功績を説明している。
25	I.F.W.	2011.09	Measkのアジア・ヨーロッパ航路への毎日配船は小規模船社の撤退を余儀なくするか	Maersk海運がアジア・ヨーロッパ航路に18,000TEUコンテナ船を配船した場合の中小規模船社への影響についてシングルグループに属する銀行の海運アナリストRigan Wong氏の分析を紹介している。
24	I.F.W.	2011.08	ターミナル・オペレーター別コンテナ取扱量2010年の世界第1位はPSA	PSAはHutchison Port Holdingを退けて2011年のコンテナ荷役ターミナルオペレーター中で世界第1位を獲得した。1位のPSAは51.3百万TEUで、これは全世界の総コンテナ取扱量の9.4%である。2位は36百万TEUのハッチソン、3位は32百万TEUのDP World、4位は31百万TEUのAPM Terminalであった。
23	C.I.	2011.07	Maerskが海運の新基準(New Normal)を宣言	Maersk海運が発表したコンテナ海運業界の改革について説明するとともに、それに対する荷主側の反応も収録している。

2011年	海外雑誌名	発行年月	タイトル(日本語訳)	記事の内容
22	I.F.W.	2011.07	新世代スーパー・フィーダー船をGraigが発注	チャーター船保有企業Graigグループは、従来比30%燃料効率のよい新世代のスーパー・フィーダーコンテナ船(2000TEU)26隻を中国の造船所に発注した。同フィーダー船は新国際化の時代に適合したフィーダー-或いは地域内運行で使い勝手がよく、耐久性のある船として設計されている。アジア域内での使用を目標としているが、排気規制の厳しい北部ヨーロッパ市場にも適している。
21	C.S.	2011.06	インドの港湾・海運の野心は世界規模へ	Indian Port Global(IPG)は、インドの海運会社の輸送量を増加させて取扱能力を確保するため、デュバイに本拠を置くDP Worldと同じようなビジネスモデルにより、世界規模の港湾運営事業を始めて世界中でターミナルを運営しようとしている。インド海運省の資金投入を受け、需要の拡大に対応し港湾の貨物取扱能力を2020年までに3倍以上に引き上げる。
20	C.S.	2011.06	コンテナの全数スキャンは廃止か	外国の港湾で船積みされる米国向けコンテナについて、全数スキャンを2014年以降実施する規制がどうやら見送られそうだ。スキャンの費用を米国外の港湾が負担しなければならないこと、この作業がサプライチェーンに混乱をこそ巻き起こすおそれがあるということで、この施策は批判され続けている。
19	Maersk Line HP	2011.06	Maerskが18,000TEUコンテナ船を10隻追加契約	Maersk Lineは、18,000TEUのトリプルEコンテナ船の10隻のオプションを大宇造船海洋に正式発注した。トリプルEコンテナ船は継続して需要が伸びるアジアからヨーロッパへの運行に投入され、記録を塗り替える積載容量とエネルギー効率を有しており、13,000TEUのコンテナ船と比べて燃料消費量が35%少ない。
18	W.C.N.	2011.04	トランスリフターが岸壁・ヤード間のコンテナ移動に採用されるか	岸壁とヤード間のコンテナの移動にトランスリフターとカセットとを用いる自動化コンテナ・ターミナルがイタリアのSavona港で計画されている。その概要を紹介する。
17	I.F.W.	2011.04	2010年のコンテナ荷動きは市場最高を達成	Alphaliner社の発表した2010年の全世界コンテナ取扱量、伸び率、伸びに寄与した港湾、最も多数のコンテナを取り扱ったターミナルオペレーター、2011年の見通しなどを紹介している。
16	C.I.	2011.04	スエズ運河の通航料3年続けて据置	ヨーロッパ諸国の深刻な負担問題が景気回復を妨げる可能性や、2011年の海運業界の業績見通しを考慮して、スエズ運河の通行料は2011年も据え置かれることになった。過去12ヶ月で燃料費が30%も高騰する事態に加え、ソマリア海賊の危機増大による諸費用負担で苦境にある船社には通行料据置は歓迎される。
15	C.I.	2011.04	船社はアジア域内の配船を強化	外交航路を配船する各船社は、最近急成長で貨物量が確実に増加しているアジア域内の航路、特に中国、日本、インドネシア間の航路への配船を増加させている。Maersk海運傘下MCC Transport社、Evergreen社、CMA CGAのCA韓進海運およびKMTC等の船社が配船を増加させている。
14	I.F.W.	2011.04	あなたの大きな船を寄港させてドイツの港湾が呼んでいる	ドイツのHanburg港とWilhelmshaven港は、巨大コンテナ船の受け入れに対応するため、ターミナルの改良・拡張工事を進めている。Hanburg港のBurchardkaiターミナルの岸壁改良および鉄道輸送能力の倍増、Steinwederコンテナターミナルのリニューアル化である。Wilhelmshaven港のEurogateコンテナターミナルも世界最大船の受け入れ可能化工事を進める。
13	C.I.	2011.03	シベリア横断鉄道によるコンテナ輸送が活性化	シベリア横断鉄道による太平洋・北ヨーロッパ間の新運輸サービスが開始された。一つは「プロクトレインサービス」で、釜山からロシアのハブ港Vostochnyに送り積み替えて同鉄道でポーランドへ輸送する。二つ目は同鉄道によるコンテナ輸送、三つ目はドイツからBMWの自動車部品のコンテナ詰め輸送である。上記輸送は2009年に落ち込んだが、2010年には回復し、貨物は中国・韓国・南アフリカへ送られる。
12	C.I.	2011.03	マースク18,000TEUコンテナ船10隻を大宇造船海洋に発注	Maersk海運は18,000TEUコンテナ船10隻を韓国の大宇造船海洋に発注した。この契約には、更に10隻+10隻のオプションを含んでいる。これにより、Maersk海運は新シリーズのコンテナ船が保有船腹量できょうかいの優位性を高められ、規模の経済性、燃料の効率性および環境調和性について利点を持つことになる。船体の長さは400m、幅は59m、23列積みで喫水は16mである。
11	I.F.W.	2011.03	日本:物流危機深まる	重大な被害を受けた港や使用不能な港が約10港に達し、Panalpinaグループ、UPS社、DHL社、Fedex社およびSchenkerグループ等のロジスティクス企業は、日本における業務を維持するのに精一杯の努力を続けている。日本の北東部発着のロジスティクス業務および運輸システムは震災により最悪の被害を受け、その機能は限定されている。
10	W.C.N.	2011.02	ベトナムの港湾拡張にカナダのファンドが融資	ベトナムでは近代的港湾インフラが欠けていることは、輸出主導で成長している同国にとっては制約であり、北部ベトナムの港湾の能力は事実上満杯となっている。カナダの資金運用会社がQuang Ninh州のCai Lan港のターミナル建設に資金の融資を行う。第1期は今年末稼働で、年間取扱量510千TEUで、全体完成時には1.2百万TEUとなる。
9	I.F.W.	2011.02	コンテナに詰め込まれた放射性爆弾の恐怖	イランのフェロウファ港で強い放射線を出しているコンテナの恐怖が高まっている。コンテナがテロリストの武器であり、こんでなを開くと起爆装置が起動されるのではという推察から、遠隔操作のロボットでコンテナを開封するか、バージによりコンテナを港湾撤去するかを決心しようとしている。多くの港湾は人口密集地帯に囲まれており、ターミナルでのコンテナ詰め核爆弾や放射性爆弾の爆発は衝撃的効果をもたらす。
8	I.F.W.	2011.01	ニューヨーク・ニュージャージー港のバイオン橋の高上げが決定	2014年にパナマ運河の拡張が竣工後に大型船がニューヨーク・ニュージャージー港を利用出来るようにするには避けて通れないため、バイオン橋を高上げするという画期的な決定が下された。バイオン橋の近代化のために最も投資効果があり、周辺への影響が最小で、工期が短い方法に関して当局で話し合いが持たれてきた結果の処置である。橋の高さは46mから65mに高上げされる。
7	C.I.	2011.01	全世界コンテナ船現況	全世界で2010年11月現在で稼働中および発注済みのコンテナ船の容量別現況は別表のとおりである。稼働中のコンテナ船で8000TEU以上は隻数で6.5%、容量の合計で20.8%占め、発注済みの8000TEU以上のコンテナ船は215隻である。更に発注残が240~270隻ある。
6	C.I.	2011.01	マースク海運は18,000TEUコンテナ船団を発注するか	Maersk海運が18,000TEUコンテナ船のシリーズを韓国で発注する準備が最終段階に入ったと報ぜられた。コンテナ貨物は増大し続けており、規模の拡大による経済性の向上は、環境への調和と燃料効率を向上させることになり、調達する船舶の大きさはきわめて重要な検討事項であるとしている。
5	C.I.	2011	シンガポール2010コンテナ取扱量世界第2位	2010年の取扱量で世界第2位コンテナ港湾となったシンガポール港の現況等について簡単に説明している。
4	C.I.	2011	上海2010コンテナ取扱量世界第1位	2010年の取扱量で世界最大コンテナ港湾となった上海港の現況等について簡単に説明している。

2011年	海外雑誌名	発行年月	タイトル(日本語訳)	記事の内容
3	C.I.	2011	2010コンテナ取扱量トップ100港	Containerisation International誌が集計した2010年のコンテナ取扱量によるコンテナ港湾トップ100港を紹介している。
2	TTS Group ASAのHP	2011	トランスリフターとカセットによるコンテナ荷役	この資料はTTS Liftec社のホームページに掲載されている情報をもとにトランスリフターとカセットを用いるコンテナ荷役について解説している。
1	Maersk海運のHP	2011	Maersk海運の新サービス “Daily Maersk” の概要	Maersk海運はアジアの4港からヨーロッパの3港に向けたコンテナを対象として “Daily Maersk” と名づける新サービスを提供する。これは貨物の受付から引渡までの日数を厳守し、遅れた場合は補償金を支払うというものである。そのサービスの概要を紹介する。

2010年	海外雑誌名	発行年月	タイトル(日本語訳)	記事の内容
49	W.C.N.	2010.12	コンテナ用バッテリー電源AGV	Gottwald社は2009年にハンブルグ港のHHLAのCTAターミナルでの試験運用のため、バッテリー駆動式AGV(無人搬送車)の試作機を発表した。現在バッテリー駆動については、Gottwald社、HHLA社を初めいくつかの大学の研究所等で共同研究体を設定している。HHLA社の温室効果ガス排出量の50%以上がディーゼル駆動の設備から出ている。
48	W.C.N.	2010.12	岸壁クレーン用アクティブ振動低減装置	ドイツのSiemens Drive Technologies Division はコンテナクレーンのアクティブ型振動低減装置を開発した。この装置はブーム・ガーダに取付けられ重りが装着されており、従来のパッシブ型より大幅に軽く効果はより大きい。リアモータの知能的な加速と制動により、ブームの振動は素早く効果的に低減される。
47	C.I.	2010.12	冷凍コンテナ特急便モロッコとロシアを結ぶ	Maersk海運社は、モロッコで産出する柑橘類の輸出のため、モロッコと北ヨーロッパを結ぶ新運航を開始した。「マルス特急便」と呼ばれるこの運航には冷凍コンテナ300~400個積み船を3隻配船し、モロッコのカサブランカとロシアのサンクトペテルブルグ間を10日で航海する。
46	I.F.W.	2010.12	アルヘシラスへZPMCがクレーンを大量納入	スペインのアルヘシラス港に6基のRMGが納入された。同港がZPMCに発注した32基の第一陣である。これらのRMGは地中海で最初に準自動化ターミナルで使用される。他にZPMCに発注済みの岸壁用コンテナクレーン8基も順次納入される予定である。
45	C.I.	2010.11	革命的な岸壁用コンテナ・クレーン	APMターミナルズ社は、コンテナ船の荷役に革命を起こすようなガントリクレーンを設計した。コンテナターミナルでは現在1バース1時間当たり130~270個の荷役であるのに対し、このFast Net クレーンシステムでは運用当初で450個/時間、習熟後は600~700個/時間の荷役が可能となる。このクレーンシステムの適用先として自動化ターミナルが最適と思われる。
44	W.C.N.	2010.10	ハンブルグのHHLAが外国への投資を増強	ハンブルグの港湾ロジステクス社(HHLA)の子会社であるHPCウクライナ社は再開発して既存の施設を拡張するプロジェクトを落札し、オデッサのコンテナターミナルに投資する。2012年に竣工予定で、水深14.5mのがんべきを延長650mに拡張し、ターミナル能力を70%増加し年間0.85百万TEUとするものである。
43	W.C.N.	2010.10	日本は二つのハブポートを整備	日本は二つのメガポートを出現させようとしている。「国際コンテナ戦略港湾」に指定された阪神港(神戸港と大阪港)および京浜港(東京港、川崎港と横浜港)がそれで、今後はこれらの港湾が国際海運のハブとなることを確実にするため、政府は優先的に資金を分配する。現在の危機的財政状況のもとでも、より集中的な政策をとる。
42	W.C.N.	2010.10	ヴェネツィア港が沖合ターミナルを計画	イタリアのヴェネツィア港は、本土から8海里沖合にコンテナターミナルを建設する野心的な計画を発表した。予定海域は水深が20mで、現在稼働中のコンテナ港の最大のものにも対応可能となる。コンテナ船とバージ船団間の荷下りし・積み込みは全自動システムにより直接行われる。一方ヴェネツィア港には新しい陸上ターミナルがつけられ、ここと沖合ターミナル間は112TEUのバージで運搬される。
41		2010/10/31	バルク港湾、ターミナル、ロジステクス2011	バルク港湾、ターミナル、ロジステクス 2011の講演・展示と交流会議が会期:2011年5.15-17、場所:アントワープで開催され、その会議案内とプログラムは添付資料のとおりである。
40	C.I.	2010.09	北米のコンテナ・ターミナルの開発プロジェクトが前進	米国ペンシルヴァニア州フィラデルフィアのデラウェア川の河口から100マイル上流に南港コンテナターミナルの開発計画がある。当初は340mの岸壁2バース、ポストパナマックス対応のコンテナクレーン5基が整備される。同港は主要消費者市場に近く、第1級の鉄道網で結ばれているので、大きな可能性を秘めている。
39	C.I.	2010.09	コンテナの全数詳細調査の方針変更への要望	現在の法律では米国に輸入されるコンテナは、積荷港湾で全数非透過性画像装置と放射線検出器の両方で検査することを定めているが、より実情に即した修正法案が米国上院に提出された。この法律「海上輸送保安法2010」は、前期2つの検査法のいずれか1つで検査すればよくなり、更に実施時期を2014年から2015年に遅らせることを提案している。
38	C.S.	2010.08	ポート Said 2009コンテナ取扱量世界第31位	エジプト最大のコンテナ港湾Port Said港は2009年に3.46百万TEUのコンテナを取扱い、世界のコンテナ港湾において第31位に位置した。同港のコンテナ取扱及び整備状況を報告している。
37	C.S.	2010.08	Salalah 2009コンテナ取扱量世界第30位	オマーンのSalalah港は2009年3.49百万TEUのコンテナを取扱い、世界のコンテナ港湾において第30位に位置した。同港のコンテナ取扱及び整備状況を報告している。
36	C.S.	2010.08	ホーチミン 2009コンテナ取扱量世界第29位	ベトナムのHo Chi Ming港は2009年3.56百万TEUのコンテナを取扱い、世界のコンテナ港湾において第29位に位置した。同港のコンテナ取扱及び整備状況を報告している。
35	C.S.	2010.08	バレンシア 2009コンテナ取扱量世界第28位	スペインのValencia港は2009年3.65百万TEUのコンテナを取扱い、世界のコンテナ港湾において第28位に位置した。同港のコンテナ取扱及び整備状況を報告している。
34	C.I.	2010.08	東京2009コンテナ取扱量世界第27位	日本を代表する港湾東京港は2009年に取扱量が345千TEU減少し3.79百万TEUで順位を2つ下げ世界第27位であった。全世界経済危機以前でもあじあ諸港の急速な進展により、同港の国際的地位が相対的に低下していることが心配されてきた。そのためコストを低減し、サービスを向上させるための行動計画を官民合同組織で作成している。
33	C.I.	2010.08	ジャカルタ2009コンテナ取扱量世界第26位	インドネシア最大の港湾Jakartaは2009年の取扱量が184千TEU減少し、3.8百万TEUで世界第26位であった。多数の製造業がより低コストの国々へ移動しているため、取扱量は減少し続けると予想される。更に同国の政情不安定さ、非効率な港湾設備、生産性の低さ等が港湾の発展の障害となっていた。
32	C.S.	2010.08	ジャワハールネルー2009コンテナ取扱量世界第25位	インドの主要港の一つJawahar Lal Nehru 港は2009年コンテナ取扱量が、109千TEU増え、4.06百万TEUで2つ順位を上げ世界第25位であった。同港は取扱能力の拡大を優先施策としているが、混雑が大きな課題となっている。しかし600千TEU拡大を見込む延長330mの新バース建設の法的な障害に直面し、企業体は未定である。
31	C.S.	2010.08	パナマ2009コンテナ取扱量世界第24位	Panama港の2009年コンテナ取扱量は、414千TEU減少し4.22百万TEUで順位を1つ下げ世界第24位であったが、減少量がラテンアメリカ諸国より小さかったのは、Panama港が「どうしても寄港したい港」という地位を維持したことを示す。パナマの主要4つのコンテナターミナル間では厳しい競争があり、港湾会社の切り替えも出て、勝者と敗者が生じた。

2010年	海外雑誌名	発行年月	タイトル(日本語訳)	記事の内容
30	C.S.	2010.08	ブレーマーハーフェン2009コンテナ取扱量世界第23位	ドイツのBremenhaven港の2009年コンテナ取扱量は、ハンブルグ港より良かったが、965千TEU(17.5%)減少し4.54百万TEUで4つ順位を下げ世界第23位であった。MSC社とAPM Terminal社が同港に同係ターミナルを持っているが、これらの船社は東ヨーロッパやスカンジナビアへのコンテナを他港で積み替える必然性が小さかったため、取扱量の減少を食い止められた。
29	C.S.	2010.08	ニューヨーク2009コンテナ取扱量世界第22位	米国東岸で最大のコンテナ港湾New York 港は2009年の取扱量が703千TEU減少し、4.56百万TEUで世界22位に下がった。港湾当局は今後8年間でU\$1.96bnを投じて、港の整備プロジェクトを実施する。航路を15.24km増進し高速鉄道施設する。大型船受入のためのBayonne橋の桁下空間の拡大方法はまだ未解決である。
28	C.S.	2010.08	大連2009コンテナ取扱量世界第21位	大連港は2009年にコンテナ取扱量が51千TEU増加し、4.58百万TEUで世界第21位であった。同港は中国北東部に位置し、天然の大水深港で冬でも凍結せず、北部から南部へ向かう貨物取り扱いに適している。中国北東にある主要な貨物発生地の内陸各都市を鉄道利用等の陸上ネットワークを築き上げた。また穀物のコンテナ詰めも早くから取り扱った。
27	C.S.	2010.08	レイチャバン2009コンテナ取扱量世界第20位	タイ第一のコンテナ港Leam Chabang港の2009年コンテナ取扱量は、512千TEU減少して4.62百万TEUで世界第19位となった。
26	C.S.	2010.08	廈門2009コンテナ取扱量世界第19位	中国東部の廈門港の2009年コンテナ取扱量は、354千TEU減少して4.68百万TEUで世界第19位となった。2011年までに全長34.8kmの航路を水深20m、副因50mに拡張する工事が進められている。中国本土と台湾海峡間の直接海上運輸が2008年末に再開されたことで同港は恩恵を受け、台湾海峡横断貨物を298千TEU取扱った。
25	C.S.	2010.08	ロングビーチ2009コンテナ取扱量世界第18位	世界を覆っている経済状況に照らして考えれば、米国第二の大港湾ロングビーチ港が2009年のコンテナ取扱量が1.4百万TEU減少して5.07百万TEUで世界第18位であったことも驚くに当たらない。2009年初期に同港の取扱量は劇的に崩壊したが、第4四半期には回復の兆しが見られ、2010年には恒常的な回復を示している。
24	C.S.	2010.08	タンジュンペラバス2009コンテナ取扱量世界第17位	世界の趨勢に反して、マレーシアのTanjung Pelepas港は、2009年にコンテナ取扱量を442千TEU増加させ6.02百万TEUとなり、記録的な成長を達成して世界第17位となった。これは従来から同港利用者の好調と同港への寄港を開始した仏船社CHA CGM社の新規コンテナ取扱いによるもの。いくつかの船社が積替え仏港を同港に移しており、これが前記の成長を支えている。
23	C.S.	2010.08	ロサンゼルス2009コンテナ取扱量世界第16位	世界の海運と米国経済のパロメータと言われるLos Angeles港の2009年コンテナ取扱量が1.1百万TEU減少し6.75百万TEUで前年と同じ世界第16位であった。当局者は「世界的な不景気が我が校の利用者に平手打ちを食らわし、それで我が港はインターモダル割引報奨金、貸付料の中断、港湾料金の低減等の過激で独創的な対応を行いU\$42mの収入を我慢した」と述べている。
22	C.S.	2010.08	ハンブルグ2009コンテナ取扱量世界第15位	最大のコンテナ港Hamburg港の2009年は、取扱量が28%減少し7.01百万TEUとなり、前年世界11位から15位に後退した。同港の主要相手国である中国を含むアジアとの貨物が24.3%減少したこと、バルチック沿岸諸国のコンテナ積替えが44%も減少した。更に長距離航路の一部船社が、業務コストが安く自社運営ターミナル保有等で、中継業務を他社に移動したことが状況を悪化させた。
21	C.S.	2010.08	アントワープ2009コンテナ取扱量世界第14位	ベルギー最大の港湾Antwerp港は、北部ヨーロッパの他港と同じく、2009年の取扱量は1.35百万TEU減少の7.3百万TEUで世界第14位であった。2010年に同港をより競争力のある港湾とするための施策が実行に移され、上半期には16.2%増加した。Western Scheldt航路の増深工事により、より大型船舶が入港可能となった。
20	C.S.	2010.08	ポート克蘭2009コンテナ取扱量世界第13位	マレーシアのKlang港は2009年コンテナ取扱量が663千TEU減少して7.3百万TEUであったが、順位を2つ上げ世界第13位であった。同港におけるコンテナ積替えは4.32百万TEUで、同港の主要業務となっている。取扱量の低迷により、新バースの建設が保留になった。しかし最近多数の船社が同港への寄港を開始・復活し、回復の兆しが見える。
19	C.S.	2010.08	高雄2009コンテナ取扱量世界第12位	台湾最大の港湾である高雄港は、2009年コンテナ取扱量が1百万TEU減少し8.58百万TEUであったが世界第12位を維持した。同港は、過去5年間取扱量の減少が続いているが、高雄港港湾局は3百万TEUの能力を持つ3つの岸壁を2013年稼働のプロジェクトを進めて積極姿勢を示している。更に同局は38.8haの自由貿易ゾーンと物流ハブを建設中である。
18	C.S.	2010.08	天津2009コンテナ取扱量世界第11位	世界の一般的な取扱い減少傾向と異なり、大連港の2009年コンテナ取扱量は197千TEU増加し、8.7百万TEUで順位を3つ上げて世界第11位に躍進した。渤海湾の北西岸に位置する同港は、海洋に接していない周囲の10都市に「水の無い港湾」を設置し、そこで輸出手続きを行えるようにして、同港の貨物の種類が大幅に増加した。また国内フィーダーサービス開始でコンテナ取扱量が30%増加した。
17	C.S.	2010.08	ロッテルダム2009コンテナ取扱量世界第10位	2009年取扱量9.7百万TEUで、青島港に追い抜かれて世界第10位になったオランダのロッテルダム港は、競争相手のどいつの港湾と比べてますますの業績を残した。2010年は取扱量も増加し回復の兆しが見えている。同港は、拡張計画を推進中であり、最新鋭の風力発電プロジェクトで、港内電力を風力発電電力に切り替えている。
16	C.S.	2010.08	青島2009コンテナ取扱量世界第9位	2009年取扱量10.26百万TEUの青島港は前年比490千TEU増え、ロッテルダム港を追い抜いて世界第9位を獲得した。従来雑貨として輸送されてきた鋼材等をコンテナ輸送するよう奨励し、港湾当局が無料で空コンの設置サービスを提供した。また低調な経済状況下でも、新たに20近くの配船が同港に寄港するようになった。
15	C.S.	2010.08	寧波・舟山2009コンテナ取扱量世界第8位	寧波・舟山港は中国東部の浙江省に位置する天然の大水深港で、地理的には上海にとって最も近い競争相手である。寧波港は公開の投資募集で多額の資金を調達し、三つのコンテナターミナル(年間取扱量8百万TEU)の建設計画を持っている。同港は2010年上期では、取扱量が前年比39%近く増加している。
14	C.S.	2010.08	ドバイ2009コンテナ取扱量世界第7位	DP World社はその本拠地において2009年に前年より730千TEUの大幅な取扱量減少に遭遇し、11.19百万TEUで、世界第7位に後退した。Jebel Aliターミナル2の能力5百万TEU拡張は既に完成し、完全稼働状況にあり、昨年設置された4個吊りコンテナクレーン等により、港全体の取扱能力は約14百万TEUに増加する。
13	C.S.	2010.08	広州2009コンテナ取扱量世界第6位	広州港は同港が持つ強力な国内フィーダー網と船社に報奨金を与える施策に支えられて、2009年はコンテナ取扱量を188千TEU増し11.19百万TEUとし、ドバイを抜いて世界第6位を獲得した。広州の広域フィーダー・シャトル網はPearl Riverデルタの生産基地をほとんど取り込んでおり、広州市は鉄道網を拡張しつつある。
12	C.S.	2010.08	釜山2009コンテナ取扱量世界第5位	釜山港の2009年取扱量は、1.5百万TEU減少し11.95百万TEUとなって世界第5位の座を保った。コンテナ貨物の需要の変化により、釜山新港会社は余剰の3バースを釜山ポートオーソリティ(BPA)に売却し、この運営をPSA International社とHanjin Transportationが落札した。なお釜山新港を支配しているのはDP Worldである。

2010年	海外雑誌名	発行年月	タイトル(日本語訳)	記事の内容
11	C.S.	2010.08	深圳2009コンテナ取扱量世界第4位	深圳港の取扱量は、2009年には3.1百万TEU減少し18.25百万TEUで、2003年来維持してきた世界第4位の座を保った。同港は米国およびヨーロッパとの輸送に大きく依存し、故意区内輸送が欠けていたため、中国港湾の中で最も大きく世界不況の影響を受けた。同港もいくつかの施設拡張計画を持っている。
10	C.S.	2010.08	香港2009コンテナ取扱量世界第3位	香港は中国からの輸出による貨物需要に大きく依存し、2009年取扱量は前年より約5百万TEU減少し、20.98百万TEUで世界第3位となったが、年末には回復基調となった。深圳や広州等の近隣の港湾が絶え間なく拡張を続けているのに影響され、当局は未使用になっている19百万TEUの取扱能力の第10ターミナルの具体的建設計画を協力を推進した。
9	C.S.	2010.08	上海2009コンテナ取扱量世界第2位	上海港で2009年に取扱ったコンテナ25百万TEU(前年比-3百万TEU)のうち13.5百万TEUはWaigaoqiao港区で、7.85百万TEUはYangshan港区で取扱われ、世界第2位を維持した。運営するShanghai International Port Group(SIPG)は両地区の更なる整備計画への投資を予定している。
8	C.S.	2010.08	シンガポール2009コンテナ取扱量世界第1位	シンガポール港の2009年コンテナ取扱量は、前年より4百万TEU減少の25.9百万TEUで、5年連続世界第1位を維持した。PSAの新開発計画により、Pasir Panjangターミナルに新たに16バース追加し、取り扱い能力を14百万TEU増加させた。シンガポールは世界の積替えコンテナの取扱総数の1/5を扱い、また取扱量の85%は積替えコンテナであった。
7	C.S.	2010.08	2009コンテナ取扱量トップ100港	2008年よりコンテナ取扱量を13.5%減少させたが、引き続きシンガポール港が1位の座を維持した。それ以下の2位上海、3位香港、4位深圳、5位釜山の順位は変わらなかったが、釜山以外はみな取扱量が減少した。日本では、2008年に比べ東京は25位、27位、横浜は30位、40位、神戸は46位、50位、名古屋は41位、54位へと、いずれも順位を下げた。
6	C.S.	2010.07&08	韓進海運がアルヘシラス(スペイン)でコンテナ・ターミナルを運営	地中海地域・南ヨーロッパにおける最初の半自動化コンテナターミナルがスペインのアルヘシラス港に開業した。Total Terminal International Algeciras(TTIA)は韓国のグループにより建設され、同グループオーナーであるコンテナターミナルで、ジブラルタル海峡に面する港湾に位置する。ターミナルは2バースで、岸壁に8基のガントリクレーン、ヤードに32基のASC・20台のSHCクレーンが備え付けられている。
5	W.C.N.	2010.03	ハンブルグ港コンテナ・ターミナル計画コンペ	ハンブルグ港のコンテナターミナルのための公募コンペで、35社の応募からRoyal Hashoningグループの提案が最優秀賞に選ばれた。その内容は、緑地と水上リクレーション用地を確保し、全ての必要なエネルギーは風力および太陽光発電により自給する。更に自動化コンテナヤードとシャトル運搬車を有し、ターミナルから出て行くコンテナの輸送手段はフィード船/内陸向はバスに置き換える。
4	W.C.N.	2010.03	RTG(ゴムタイヤ・ガントリー・クレーン)は電化の時代へ	港湾でのディーゼル燃料費を節約し、大気汚染ガスの排出をへらすため、アジア太平洋地域では、配電線を通じてRTGに電力を供給する方式に転換しようとしており、そのシステムメーカの動きである。Conductix-Wampfler社は深い港で導入済みで、今回博多港向けを三井造船から受注した。Vahle社は香港のMTLに設置し、最近この事業でCavotec社と協議開始した。
3	C.I.	2010.01	米国向けコンテナの全数透視は2014まで延期	米国国土安全保障省は、米国外の港湾における米国向けコンテナの全数透視検査を用いる規制の実施を2014年まで延期しようとしている。理由として、ひつようなぎじゅつが入手できないこと、支援体制が不十分なこと、画像を判定する職員が不足していること等をあげている。ただし、実務上および技術上の困難さを別にしても、予想される費用負担は莫大である。
2	I.F.W.	2010.01	低価格リーチスタッカー	Cargotec社は、中規模のコンテナターミナルで平均的な操業を行う場合に適当な低価格の新リーチスタッカを発売した。従来の商品群はほどの性能を必要としない顧客もあり、それ程過酷な使い方をしない荷役も行われるようになっていたため、運転費用も少なく、特にエネルギー消費とメンテナンスの面で優れている。
1	I.F.W.	2010.01	コンテナ港湾「London Gateway」にゴー・サイン	DP World社は必要な土地を購入して、15億ポンドを投資し、取扱能力350万TEUでヨーロッパ最大となるコンテナターミナルおよびロジスティクス団地「London Gateway」建設プロジェクトが始動した。英国政府も、社会基盤施設の整備は正否が実施している経済活性化の諸施策を下支えするものであるとコメントしている。

2009年	海外雑誌名	発行年月	タイトル(日本語訳)	記事の内容
72	Green Port	2009.12	APMターミナルズ社と環境調和理念(その3)	APMターミナルズ社はコンテナターミナルの荷役機械からの汚染物質の排出削減方策の一つとして、超硫黄燃料、天然ガス等の「代替燃料」を使用している。二つ目は、効率のよい革新的ディーゼル荷役設備を開発し採用する会社方針から、エコRTGを導入している。更に各コンテナターミナルの大気質モニタリングを行う「達成度測定」を実施し、企業の社会的責任の達成目標としている。
71	Green Port	2009.12	APMターミナルズ社と環境調和理念(その2)	APMターミナルズ社は環境調和理念の実現のため2つの施策を開始した。一つは資源とエネルギーの消費を減少させ、廃棄物と大気汚染を低減させながら、顧客サービスを向上させる「環境効率方針」である。もう一つは、APMターミナル・ロッテルダムで風力発電による電力(グリーンパワー)を電力網に注入し、年間のCO2排出量を45%低減している。
70	Green Port	2009.12	APMターミナルズ社と環境調和理念(その1)	APMターミナルズ社は世界34%で10の港湾プロジェクトを推進し、48のコンテナターミナルを持ち、同社の港湾運営は世界のロジステクスチェーンにとって不可欠である。同社の環境努力目標は、同社の世界中のターミナルのCO2排出量を2007年比で15%削減することの声明を出した。革新的な最適運用方式の確立、戦略的投資、省エネ重視の作業計画等で実現する。
69	I.F.W.	2009.12	デュバイ・ワールドの経営危機とDP World	DP World社は、その親会社Dubai World社のリストラの影響を受けることはない」と表明した。DP World社がリストラと支払い停止を免れたのは、同社が上場企業であるためであった。Dubai World社はターミナル運営企業の上位5社に入り、DP World社の株式の77%を有している。
68	I.F.W.	2009.12	武器の偽装輸送で貨物船が拿捕される	ドイツ企業が所有する貨物船がイスラエル海軍により拿捕され、大量の武器を運んでいたことが判明した。同船には通常貨物に偽装された武器500tを運んでいた。同船と乗組員はその後解放された。
67		2009/12/14	ヘビーリフトとプロジェクト・カーゴ	標記の正確な定義を調べていて、それらの関連記事とICHCA会長のStrang氏の見解を下記に示す。「ヘビーリフト」は通常の貨物船やクレーンでは困難な重量物運搬用多目的運搬船で、70tも吊上げ可能である。「プロジェクトカーゴ」は大規模なプラント建設等で、大量の資材を必要とするプロジェクトの一環の輸送をこのように呼ぶ。
66	Green Port	2009.12	船上でもゴミ分別収集	船社は船上のゴミの分別収集を促進しており、これに対応した陸上の受入設備の普及を求めている。ハッチソン英国が行っている対応は、ゴミの発生源に近い所で分別が最も効率的であることを示している。同社の革新的なゴミ容器運搬システムは同港全体で総合的リサイクル率45%を達成している。
65	I.F.W.	2009.12	波路遙かにコンテナは行く	英国BBC放送局は、コンテナがグローバルイゼーションに乗って世界中を旅するのを追跡した。同コンテナは昨年中に海上を76,800km、陸上を6,400km旅して、今月初めサウサンプトン港のDP Worldターミナルに帰ってきた。海運業界の困難な状況を反映して、同コンテナは4月～7月の間横浜港で空コンのまま放置された。
64	I.F.W.	2009.12	新巨大コンテナ船が就航	CMA CGM社は、13,000TEUクラスのコンテナ船群の旗艦というべき新コンテナ船「クリスト・コロム」の引渡しを受けた。船体の長さは365mで、11月11日より同社のアジア・ヨーロッパFAL航路に就航した。同船は大気汚染ガスを4%、オイル消費量を25%、燃料消費量を3%低減する。
63	Green Port	2009.12	ロンドン港への航路改良でCO2を年間2,200トン削減	ロンドン港湾公社は、ロンドン港への航路を水深がより大きく、より直線的な航路に整備する作業を進めている。この水路改修が実現すれば、船社は時間と燃料を節約でき、特にテムズ河口のプリンス航路の増深と航路変更で、年間のCO2放出を2,200t削減できると推算されている。
62	C.S.	2009.11&12	世界初のハイブリッド・トラクター	ST Engineering社のグループ企業で陸上の機械システムを担当しているST Kinetics社は、油圧駆動装置(HHD)により強化されたターミナルトラクタを発表した。従来型トラクターより燃料消費量を20%節約を達成する。同社のエネルギー再生型ハイパワー油圧駆動装置をKalmer社が全世界で販売しているターミナルトラクターに組み込むことで、Cargotech社と覚え書きを交わした。
61	C.S.	2009.11&12	折畳み式コンテナ	ボストンのCompact Container System社は折り畳めるISOコンテナが海運業界の経営状況を好転させられると主張する。同社の40ft背高折り畳みコンテナを使用すれば、空コンの返却の運賃と設置費を最大75%低減可能と説明している。折り畳まれた4個のコンテナは、標準のコンテナ1個のスペースに収まる。
60	C.S.	2009.11&12	コンテナ筐体の検査基準の統一を	リースしたコンテナが返却されたときに行う検査の基準が2つ〔コンテナ保有者協会(COA)が承認している共通基準(CIC)、ICL-5〕あり、各の基準に適合するための修理費が の場合の方がより12.9%少ない。このため個々のリースに係る業界は、 のCIC基準で業界統一基準化を求めている。
59	C.S.	2009.11&12	ソフトウェアによりコンテナ・ヤードの生産性を向上	タンジューン・ベラバス港はRTGとコンテナヤードの管理を強化するため、「RTG展開」、「RTG配車」、「ヤード混雑予想」の3つのソフトウェア・セットを導入した。これらはARL社が納入したもので、常に最適化アルゴリズムを適用して最適の作業順序と作業実施のシナリオを作成してオペレータに提示するよう設計されている。
58	C.S.	2009.11&12	エコAGVの試用がハンブルグのターミナルで	Gottwald P.T.社はHHLAC.T.社と協同で、バッテリー駆動式AGVの開始を始めて来て、その試作車をハンブルグ港で試験運用することで調印した。本AGVが市街地に近い港湾の環境保護に持続的な貢献をもたらすとしている。両社は港湾およびターミナルで排気ゼロのコンテナ取扱機材を目指している。
57	W.C.N.	2009.11	英国で新しい沿岸コンテナ輸送が始まる	Feederlink社はサウサンプトンとグラングマウスおよびサウスシールドを結ぶ「東沿岸サービス」と呼ばれる週一度のフィーダーサービスを開始した。容量407TEUで冷蔵ブラグ80個備えたコンテナ船を使用する。このサービスは多くの利点があり、道路・鉄道による輸送に対し真の代替手段となり、イングランド北東部の顧客のアジア貿易を容易にする。
56	C.I.	2009.10	釜山新港の3バースをPSA-Hanjin協同企業体が運営	釜山港湾局(BPA)は釜山新港の新コンテナターミナル3バース(取扱能力150万TEU)の運営企業が見つからず苦渋していたが、最終的にPSAとHANJINの共同企業体に決定することができた。釜山港は中国の港湾との激しい競争に苦渋しており、2009年前半は取扱量が17%減少したが、その後業績は回復し始めている。
55	C.I.	2009.10	アントワープ港の航路増深に光明が	スケルデ河口部のオランダ領部分の浚渫に関し、オランダ当局の説得に成功したことで、アントワープ港の関係者は枕を高くして心安らかに眠れるようになった。この合意は、オランダ当局が地盤の環境上に問題があるとして一度破棄されたもの。
54	I.F.W.	2009.10	海上風力発電基地への資材輸送	BBCチャータリング社は、これまで風力発電設備の塔の部分は覆かた状態でバージに載せて輸送せざるを得なかったが、今回同資材を縦向きに載せて輸送し始めた。イングランド東海岸にある世界最大のグレーターガバード風力発電基地に向けて、プロジェクト全体で140基の発電設備を36航海に分けて輸送する。

2009年	海外雑誌名	発行年月	タイトル(日本語訳)	記事の内容
53	I.F.W.	2009.10	アントワープ港で超大型コンテナ船の受け入れ準備進む	アントワープ港では、MS社の最新の14,000TEUシリーズの超大型コンテナ船を用いた試験が行われ、その結果に基づきアントワープ港のコンテナ船の最大サイズを大きくする許可が与えられた。スケルデ航路運用審議会は、スケルデ河下流を航行する船舶の最大喫水を13.5mから14mに大きくし、大型船の入港時間帯を広げた。
52	I.F.W.	2009.09	衝突で破損したコンテナ船から荷役	先月末オランダ沖合40kmで省とした2隻の貨物船のNirint Prodelは火災が発生し、MSCNikitaiは船尾に穴が開いた。後者は損傷で船底が海面下18mまで沈み、ロッテルダム港のコンテナターミナルでは荷役不能なため、同港のEMO雑貨埠頭で荷下ろしを行っている。
51	ICHCA Information Paper	2009.09	梱包された危険物の陸上での取扱に従事する者の研修	IMDGコード(国際海上危険物規則)改正34-08号は、岸壁およびその背後において海上輸送に關して危険物を取り扱う者に対して、研修を義務づける重要な改正である。これに関しICHCAは参考資料を作成し、IIL本部より会員に配布するとともに、TTCIubのWebサイトにも掲載した。
50		2009/08/28	JADE WEST PORT	JADE WEST PORTはドイツのウィルヘルムハーフェンに建設中で、2011年操業予定の世界最大のコンテナ船を受け入れらるドイツ唯一のコンテナターミナルとなる。岸壁延長は1,725mで、船体長430m、船幅58m、喫水16.5m、要領10,000TEU以上の超大型船が接岸可能である。
49	Port Technology International	2009/08/25	季刊Port Technology International	「季刊Port Technology International」は港湾関係者を対象読者として英国で刊行されている専門情報誌で、年4回刊行され、以下の分野について記事を収録している。港湾計画、財務・危機管理、浚渫・沿岸開発、コンテナ取扱、税関・保安、倉庫・ロジステックス等々。
48	Por Tech 2009	2009/08/25	第5回Por Techサミット2009	2009年10月28～30日に、中国上海で開催される「第5回Por Tech サミット2009」の案内パンフレットで、アジアにおける港湾産業のイベントである。その内容としては、世界の港湾からの発信、最先端技術、持続可能な開発、半日ワークショップ、高速ネットワーク、洋山港見学である。
47		2009/08/12	ターミナルの運営ディプロマ・コース	Informa社の事業の1つで、港湾ターミナルの管理・運営に関する通信教育のコースである。ディプロマは、短期の研修コース等の修了者に与えられる称号で、大学卒業生に与えられる「学士」に似た照合で、授与された人は自分の資格の一つにこれを挙げるができる。
46	W.C.N.	2009.08	サン・ベドロ湾港湾清浄な大気行動計画のもとでの最初のターミナル・リース契約が締結	ロスアンゼルス港理事会は、地域住民団体とサンベドロ湾港湾清浄化大気行動計画をふまえた新しい長期ターミナル・リース契約をTra Pac社と締結した。Tra Pac社はAMPに代わって、当該ターミナルに接岸するコンテナ船で、陸電供給に対応する設備がない船舶からの排気を集めて処理する。
45	C.S.	2009.08	2008コンテナ取扱量トップ100港	2008年のコンテナ取扱量トップ100港を集計して記載している。前年比%を()内で示して、トップ5港は順に シンガポール(+7.4)、上海(+7.1)、香港(+2.1)、深圳(+1.5)、釜山(+1.2)であった。東京は26位、横浜は30位、名古屋は41位、神戸は47位であった。
44	I.F.W.	2009.08	港の風景(米国Port of Longview)	記事そのものは混載貨物や大型重量貨物のマーケットの現状と将来を展望したもので、コンテナ関係者は混載貨物にも食指を伸ばしてくるかもしれないという記事である。現にLongview港のように主に混載貨物を扱っていた港湾も、コンテナ港湾やコンテナターミナルとの貨物の取り合いが起きている。
43	C.I.	2009.08	ヨーロッパからアジアへの外洋コンテナ船がスエズ運河経由航路に復帰	ヨーロッパからアジアへ向かうコンテナ船が喜望峰を回るルートを採用していたが、最近喜望峰を回るルートに復帰し始めた。これまでに、MSCのLionサービス、MaerskのAE6・AE7サービス、CMA CGMのFAL2サービスは喜望峰周りを止めている。スエズ運河経由航路に戻った動機は、運河の通航料の節約よりも燃料費の高騰が大きかったためである。
42	W.C.N.	2009.07	ロッテルダムの東にコンテナ用バージ基地	ロッテルダムの東にある町アルブラッセルダムに「コンテナ・トランスフェリウム」と呼ばれる新しいインターモーダル・バージターミナルが建設されることになった。アルブラッセルダムとマークスラクテとは50kmの距離で、2011年末に開業し、2014年には20万TEUの10ヶを取扱う。自動車道輸送10ヶの10%を水路輸送に切り替えられる。
41	W.C.N.	2009.07	五大湖でコンテナのバージ輸送が始まる	オンタリオ湖とモンリオールを結ぶ週1回のコンテナフィーダ輸送が開始された。水上輸送は混雑する道路から貨物自動車減らす環境上の利点に加え、重量貨物の輸送では、費用削減が可能である。制限重量いっぱいまで貨物を積み込めるので、鋼材やタイヤ等を20ftコンテナで輸送しても、道路輸送で払うべき重量超過特別料金が不要である。
40	I.F.W.	2009.07	サウサンプトン港のコンテナ・クレーンのブームが崩壊、船上に落下	英国のサウサンプトン港の100tクレーンがコンテナ・クレーンに積込中の作業中の第6クレーンのブームが崩壊し船上に落下し、クレーン運転手が重傷を負った。船体に構造的被害が発生していないとみられたが、詳細は不明。このクレーンはモリス社が1991～1993年に製鋳記した4基のうち1基で、最近ブームを延長した。昨年は第8クレーンが崩壊し、英国物流関係者に大損害を与えた。
39	C.S.	2009.06	港湾は経済刺激策によりどのような恩恵を受けるか(ドイツの場合)	ドイツの経済刺激策の重要な施策の柱は、経済成長と雇用において乗数効果の大きいことから、社会基盤施設整備への資金増加である。これらについては関係者の円卓会議で、施策の初期段階で優先事業が選別された。別の注目事業は、コンテナと港湾物資の輸送で限界状態の道路であるHamburgとBremenを結ぶA1自動車国道の6車線化事業である。
38	C.S.	2009.06	電化RTGクレーンのための“ドライブ・イン”方式	Conductix Wampfler社の「ドライブ・イン」方式は、既存の電化RTGと同様に給電レールを使用するが、レール間移動時に作業員による受電器の脱着作業を必要とせず、TGがレールに入るときには受電器が安全に導かれる。ドライブ・イン方式は作業時間とエネルギーを節約し、ターミナルの環境負荷を軽減し作業能率を向上させる。
37	I.F.W.	2009.06	ノヴォロシースク港の新しいクレーン	ロシアのノヴォロシースク港のコンテナクレーンに、強風と地震に対して安全なように設計されたLiebherr社製の特注の岸壁コンテナクレーン1基が納入された。また最近動ターミナルは、Konecrane社で一般配線網から受電する環境調和型ケーブルリール式クレーンを4基導入している。
36	W.C.N.	2009.05	Bromma社の全電気式スプレッダー	Bromma社によれば、経済の後退にもかかわらず、世界中の多数の地域のコンテナクレーンがスプレッダーのグレードアップに投資している。その多くは、2個吊りスプレッダーを全電気式にグレードアップするものである。ヤードクレーンの1個吊り油圧式スプレッダーを全電気式スプレッダーに交換する動きも続いている。
35	C.S.	2009.05	長期計画の達成を目指しコンテナ・ターミナルの建設は続くその4(ナント)	ナント港もまた戦略的な開発プロジェクトへの投資を続ける計画であり、コンテナおよび石油関係事業の開発を含んでいる。この中には、岸壁延長1,000m、45haのヤードも含まれ、5年以内にこつてな一みなるを開発すると言っている。

2009年	海外雑誌名	発行年月	タイトル(日本語訳)	記事の内容
34	C.S.	2009.05	長期計画の達成を目指しコンテナ・ターミナルの建設は続くその3(ルアーブル)	ルアーブル港の2000地区では、既に稼働している1400mの岸壁の隣に、バース延長350mバースが6バースの第2期計画が2009～2010年に供用開始予定で順調に進展している。最初の2バースはGMP社が、3番目のバースはTPO社が、残りの3バースはMSC社が運営する予定である。
33	C.S.	2009.05	長期計画の達成を目指しコンテナ・ターミナルの建設は続くその2(ダンケルク)	ダンケルク港のコンテナターミナルNFT1は2008年に16ha拡張されて49haになった。そこには2基のコンテナクレーンも納入された。またターミナル運営企業とダンケルク港当局は、同港とストラスブルグを結ぶ84TEU積み貨物列車の運行を推進中である。ダンケルク港の主な利用者は鉄鋼業であるが、鉄鉱石と石灰の取扱量は減少している。
32	C.S.	2009.05	長期計画の達成を目指しコンテナ・ターミナルの建設は続くその1(マルセイユ)	旧来のマルセイユ港は用地の制限があり、40km離れたFosに新しい港湾開発(Fos 2Xプロジェクト)を推進する。本プロジェクトは、同港新規インフラ整備の目玉であり、2つのコンテナターミナルが出現し、1つはMSCが、他の1つはCMA CGMとDP Worldの共同企業体より運営される。
31	C.S.	2009.05	ハイブリッド・トラクターは排気低減に貢献する	テキサス・キャバシティ社はプラグ接続可能なハイブリッド電気式ターミナルトラクタ(PHETT)を商品化した。最高効率状態のエンジンで定速運転される発電機で電力供給する。本機は蓄電シリーズのハイブリッド製品であり、燃料消費費を60%、騒音レベルを30%低減する。
30	I.F.W.	2009.05	スコティッシュ・ヴァイキング号がフォース湾に	スコティッシュ・ヴァイキング号はノーフォーク海運が英国スコットランド州エディンバラ近くのRosyth港とベルギーのZeebrugge港を結び航路に投入するために建造した船で、最初の航海を終えてフォース湾に入ってきた。同船はスコットランドとヨーロッパ大陸を結び唯一の船便を復活させたもので、当初は週3回の航海を行う。
29	C.I.	2009.05	冷凍コンテナに着目して見る新造コンテナ船の動向	冷凍コンテナは多数の船舶で専用冷凍船から貨物を奪っている。米米の輸送にも冷凍コンテナが利用されるようになり、契約済み船では、特に3000TEU以下の小型コンテナ船では冷凍コンテナ容量比率が21.6%で、8000TEUの大型コンテナ船の同12.7%より多い。このことは、一般に小型コンテナ船は新興市場関連の輸送が多く、これは市場では冷凍コンテナの貨物の比率が高いためと思われる。
28	I.F.W.	2009.04	世界最大のコンテナ船MSC Beatrice処女寄港	世界最大のコンテナ船MSC Beatriceが4 / 7アフトワーブに処女寄港した。容量は14,000TEUで、船体長さは366m、総トン数151,559tと発表されている。ただしEmma Maerskは船体長397m、総トン数170,794tで容量は11,000TEUと発表されているが、13,600TEUとも15,212TEUとも試算されている。
27	C.I.	2009.04	CMA CGM社はパナマ運河を敬遠し喜望峰を經由する航路を採用	マルセイユに本社を置く船社CMA CGM社は更なる運行経費の節減のため、極東とアメリカ/カリブ海を結び配船で、カリブ海からアジアへの航海でパナマ運河を經由せず喜望峰を回る航路を採用することを決定した。1航海でU\$ 200,000節約可能であるが、10番目のコンテナ船の投入が必要で、この燃料費の増加が発生する。
26	C.I.	2009.04	ロングビーチ港とロサンゼルス港が貨物増のために各種報奨制度を準備	ロングビーチ港とロサンゼルス港は、利用する港の選択が自由なコンテナをより多く両港に取り込むため、各種報奨制度を発表した。鉄道でカリフォルニア州の外からまたは外へ運ばれる輸入貨物に対し港湾料金を10%減額する。輸入貨物の大部分が鉄道輸送されるので、この報奨制度は相当の効果を発揮する。
25	C.I.	2009.04	新しいインターモーダル・ターミナルがアフトワーブに	内陸部に通じる鉄道と道路に接続するコンテナターミナルの建設がアフトワーブで開始された。ヨーロッパ内陸の交通にとって、混雑する新ターミナルは、港湾地域を避けられる好位置にあり、2010年供用開始される。ターミナル面積は100,000m ² で、3基の大型トランスファークレーンで、1日10～12列車を捌くことができる。
24	C.I.	2009.04	コンテナ全数X線透視法の実施には疑問符か	2012年以降、米国向けのコンテナは積荷港で全数X線透視を義務づける法律の実施に関し、新任の米国国内保安長官は実施開始の可能性をほのめかした。コンテナ荷役の効率低下と費用の増加が発生するため、約30カ国が実施困難との見解を表明している。
23	I.F.W.	2009.04	ドーバー海峡に高速のフェリーが就航	フランスのLD Line社は、ブローニュ・ドゥーバー航路にドーバー海峡を最短時間で横断できる高速カタマランを投入する。長さ112mで、40ノット出せ、1時間で横断可能。ユーロトンネルを利用するより25分間がかかるが、現在の同航路の所要時間は1時間45分であるので、この時間短縮は陸運業者から歓迎されている。
22	C.S.	2009.04	オークランド港のターミナル改良と運営の免許を民間企業に	オークランド港湾局は、ボーツ・アメリカ社とターミナルインストルメント社の共同企業体であるボーツアメリカ・アウトハーバ社に、ターミナルの改良と運営の50年間の免許を与えた。これにより160エーカーのターミナルの改良にU\$ 150mが投資され、85,000人の雇用が創設される。
21	I.F.W.	2009.04	コペンハーゲン・マルモ港で強気の投資	スウェーデン・デンマークの港湾複合体は、市の中心部の港湾施設を2011年にマルモに移転し、新たに3つのターミナルを建設すると発表した。現在運輸産業は好ましくない経済状況であるが、現設備は小さすぎ、再び経済が活性化されたときを見据えて、取扱能力を大幅に拡大するもので、この先40～50年間の施設拡張にも対応できるものである。
20	C.S.	2009.03	ヤード・クレーン納入実績(2008年)	2008年には877基のヤードクレーンが11社から納入され、RTGは708基、RMGは169基で、全体に対するRMGの比率は増加を続けており、ターミナルがヤードより高密度利用と自動化の可能性を念頭に整備を進めていることを示している。
19	C.I.	2009.03	船社はスエズ運河を敬遠	長距離航路に配船している船社は、暫定処置として北部ヨーロッパから極東向けの船舶に、スエズ運河を經由せず喜望峰回りの航路を執る処置を取り始めた。現在3配船でこの経費削減処置が実施されており、船社はスエズ運河通行料と、アデン湾の海賊対策分担金を節約できる。
18	I.F.W.	2009.03	パキスタンのターミナルが攻撃を受ける	アフガニスタンの過激派は、二つの陸上貨物ターミナルを攻撃した。そのうちの一つの攻撃では、ベンジャールのターミナルにあった数十台のトラック、海上輸送用のコンテナ、軍用車両が破壊された。攻撃した過激派は、アフガニスタンにおける米国主導の作戦にパキスタンが支援することに反対しており、連続的な攻撃を行うと警告している。
17		2009/03/06	英国ハリッジ国際港に思いがけぬ春風	思いがけぬ港運の春風がハリッジ国際港に吹いた。風力発電機という予想外の利用者が港にやってきたのだ。風力発電機のパーツはG.S. Wind Farm向けで、風力発電機6台分を積んだ台船は定期的に運行する。
16	I.F.W.	2009.02	ブリタニア・フェリーが新造船を投入	ブリタニア・フェリー社は、約143億円で建造したフェリー“The Amerique”をプリマスとロスコフを結び航路に就航させた。60台の貨物自動車収容でき、同社のフェリー“The Pont Aven”とともに運用される。

2009年	海外雑誌名	発行年月	タイトル(日本語訳)	記事の内容
15	C.I.	2009.02	世界最大のコンテナ船MSC Daniela	公称容量13,800TEUのコンテナ船が韓国のGeajeでMSC Danielaと命名され、マースク海運のE級船舶(11,000TEU)より大きく、世界最大のコンテナ船となった。しかし、マースクは所有する船舶の容量を相当小さく発表する。MSC Danielaはマースク船より全長で31.6m、幅で5.2m小さい。
14	I.F.W.	2009.02	大手ターミナル・オペレーターの業績と将来見通し	世界の大手ターミナルオペレータのPSA、DP World、Eurogate等は、2008年の業績は通年で伸びを示したが、各社第4四半期は最悪の業績となった。また、各社とも2009年の見通しは、取扱量が大幅な落ち込みを示すと予想している。
13	C.S.	2009.01&02	Yang Ming社が高雄のターミナル運営免許を取得	Yang Ming社の子会社KMCTは、高雄港の新しいコンテナターミナルを運営することになった。新ターミナルは台湾で最初の半自動化ターミナルで、4バース、40基の自動RMGと12基のガントリクレーンが設置される。また、韓国のTotal Soft Bank社は、ここにCATOSを納入すると発表した。
12	C.S.	2009.01&02	プロマ社が全電気式スプレッダーを80台受注	スウェーデンに本社を置くプロマ社は、最近ヤードクレーン用の全電気式スプレッダーを80台以上受注したと発表した。このスプレッダーは、重量と構造に画期的長所を有し、クレーンエネルギーの節約、維持点検回数の節減、耐用年数の向上、環境への影響軽減に繋がっている。
11	C.S.	2009.01&02	タコマ港がGPSを利用した陸上のコンテナの追跡システムを試験運用	タコマ港湾局は、セーフフレート・テクノロジー社が開発したGPS追跡システムを使って、沿岸のコンテナターミナルから米国東部および中西部の仕向地まで鉄道輸送されるコンテナを追跡する試験運用をしている。この副次的な効果として、このようなシステムはサプライチェーンの保安上の信頼性を高めることに繋がっていることである。
10	C.S.	2009.01&02	岸壁コンテナ・クレーンの納入実績(2008年)	Cargo Systems誌が行った岸壁コンテナクレーンの2008年納入実績では330基で、2007年の321基よりじゅっかんの増加となった。メーカー別では、ZPMCが247基で市場占有率は75%で第1位だった。同社は近年大きなクレーンが多くなり、定格荷重70t以上を85基、アウトリーチも60m以上のものを200基以上納入している。
9	C.S.	2009.01&02	ハッチソンがストックホルムに進出	香港に本拠地を置くハッチソン港湾ホールディングスは、ストックホルムに現在あるコンテナターミナルの運営を引き継ぎ、新たなターミナルの開発に合意した。新しく開発するニーネスハムンのコンテナターミナルは、25haの面積を有し長さ800mで15m水深の岸壁が建設され、2012年供用開始の予定である。
8	C.S.	2009.01&02	サン・ベドロ湾でコンテナ取扱量が激減	カルフォルニア州のサン・ベドロ湾内にあるロサンゼルス港とロングビーチ港の活動状況は米国のみならず世界経済のパロメーターと見られているが両港の通年業績は急減を示し両港の減少率は前者で6%、後者で11%、12月は各々15%と25%減で特にひどかった。
7	C.S.	2009.01&02	カールマ社が個別仕様ターミナル・トラクターを発表	カールマ社は、荷役を行うターミナルで使用するトラクタとしてヨーロッパ市場の要求に合致するよう設計されたトラクタの新製品を発表した。方範囲のオプションを備えておりターミナル事業者は適切なオプション選択により自らの要求に沿った使用にすることが可能。運転視界が広く運転室での操作が簡単になっている。
6	W.C.N.	2009.01	新しいパナマ帽をかぶるとコンテナ海運はどう変わるか(その2)	Dynamar社の報告書ではスエズ運河を經由して極東と米国東海岸を結ぶコンテナ海運について2015年以降と、それ以前の状況を分析し、また米国東海岸の港湾パナマ運河を經由したフィエダ輸送についても検討している。更に新パナマックス船による「赤道振り子輸送」についても述べている。
5	W.C.N.	2009.01	新しいパナマ帽をかぶるとコンテナ海運はどう変わるか(その1)	オランダの海運コンサルタントDynamar社はパナマ運河が拡張された後の同運河を經由する船舶の動きを予測研究している。この研究は2015年に新しい開門が使えるようになる新パナマックス時代が始まってからと、それ以前の船舶の動きを検討した。
4	I.F.W.	2009.01	フランクフルト空港の第4滑走路	ヨーロッパ最大の航空貨物ハブであるフランクフルト空港は第4滑走路の建設については裁判所が認めたが夜間飛行の禁止に関連し困難に直面している。空港を運営するフラボートは当初夜間飛行禁止に同意していたがルフトハンザの強い働きかけで地方政府は条件つきで認めた。ただし連邦裁判所に持ち込まれ結論は2~3年先となり貨物取扱の主要施設建設は先送りされそうだ。
3	I.F.W.	2009.01	ヒースロー空港の第三滑走路の新設にゴーサイン	英国政府は長い間能力いっぱい運用されてきて他の国の国際ハブ港に地位低下していたヒースロー空港の第三滑走路にゴーサインを出した。環境保護主義者は反対しているが貨物運送業からは歓迎されている。航空貨物輸送は英国輸出の総額の25%を担っているが二酸化炭素排出量は0.6%である。
2	I.F.W.	2009.01	ロッテルダム港でコンテナ取扱量が急減	ヨーロッパ最大のコンテナ港湾であるロッテルダム港は最近の景気後退でコンテナ取扱量が急減している。去年の貨物取扱高は過去最大であったが取扱量の伸び率が前年の6.4%から2.7%に減少した。しかし投資が続いており当局は将来を肯定的に見ている。
1	C.W.	2009	港荷協機誌「港湾荷役」の記事が“Cargo World2009”に	国際荷役調整協会(IIL)の機関誌で、その2009年号にIIL会長が来日の折に止まった港荷協の機関誌『港湾荷役』の中の下記の2編の記事を“Cargo World”に掲載した。新しい時代における荷役機械の維持管理(吉田由治) 港湾施設・機械の最も効率的な維持管理(山縣宣彦)

2008年	海外雑誌名	発行年月	タイトル(日本語訳)	記事の内容
55	C.S.	2008.12	イタリア、タラント港がハッチソンの進出を切望	イタリアのタラント・コンテナ・ターミナルは(TCT)は中央・南東ヨーロッパのハブ港になると予想されてきたが2001年開業以来エバグリーンにより運営されてきて実現しなかった。そこでTCT側はコンテナターミナルの巨人ハッチソンのインフラ整備に力を発揮してくれると期待している。
54	C.S.	2008.12	排気ゼロの動力源で稼動する新型AGV	スイスのNumexia社は同社の非接触エネルギー伝達技術を使って排気ゼロの無人搬送台車 (AGV)を開発した。
53	I.F.W.	2008.12	中国 台湾の直接航海が再開	中国と台湾間の道路・空路・郵便の直接接続は60年間中止とされてきたが、この度、再開し相互に大型コンテナ船が1949年以降初めて台湾海峡を横断した。海峡の両岸を直接結ぶ航海により大きな時間と費用を節約し船社と荷主の事業競争力を向上させる。
52	C.S.	2008.12	老朽トラックの港湾進入を禁止、クリーンでないトラックに課金	ロサンゼルス港とロングビーチ港の港湾ターミナル運営会社はクリーントラックを奨励するため老朽トラックから課徴金を徴収し港湾への進入を禁止する。既に両港で実施されている混雑時間帯回避制度の課徴金システムと同様な方法で対応する。
51	I.F.W.	2008.12	コンテナという箱に何が起きるか	西欧の消費の減退が海上コンテナ輸送の劇的な不調を引き起こし、その影響がコンテナ製造業界にも顕著になってきた。コンテナ製造業者は大部分中国にあるが今や、その業界全体が休業が閉鎖の状況にありコンテナ価格も劇的に低下している。その一方で背高45ftコンテナやパレット幅45ftコンテナの需要が高まっている。
50	C.S.	2008.12	ジェノバ港過剰貨物の緩和のため内陸基地プロジェクトを発進	ジェノバ港は後背地に山脈が迫り港湾拡張の余地がないため内陸部に基地を設けて港に到着したコンテナを鉄道で通関施設のある内陸基地へ移送するプロジェクトを立ち上げた。これによりジェノバ港は地中海のライバル港に対し競争力を維持可能となる。
49	C.S.	2008.12	コネクレーン社の広告	コネクレーン社はクレーンや各種機械の設計を改良し船団運用のためのソフトを強化する指標を設定している。わが社の製品の燃料削減システム電気駆動クレーンなどの先進的な改革の背後には当社の伝統である環境にやさしい指向がある。
48	C.S.	2008.11	東南アジアのコンテナ・ターミナルがコネクレーン社のゴムタイヤ式ヤードクレーンを調達	コネクレーン社はインドネシアのベティケマス・スラバヤ・ターミナルから4基のRTGをタイのラムチャバンからサーチスタッカと空コン取扱機械を受注した。同社は2001年にRTG納入時にメンテナンス事務所をターミナル内に開設しサービス活動を重視して今回の受注につながった。
47	C.I.	2008.11	2013年末には8,000TEU以上の大型コンテナ船が500隻に	Containerisation International 2008年11月号によれば8,000TEU以上の大型船は現在稼動中のものが184隻で2013年までに引渡が316隻で同年末には500隻以上となる。
46	C.S.	2008.11	タンジュンペラバス港がゴムタイヤ式ヤードクレーンを三井に発注	マレーシアのタンジュンペラバス港が三井造船(株)に11基のハイブリッドRTGを発注した。これらは吊り荷降下時に発生するエネルギーをコンデンサ(蓄電池)に備え吊り上げ時に利用し燃料消費およびCO2排出を各々50%低減する。また作業効率化のため20ftコンテナ2個吊りのスプレッドを装備している。
45	I.F.W.	2008.11	ダンケルク港に大型コンテナ・クレーン	ダンケルク港コンテナターミナルのオペレータであるNFT1に2基のスーパーポストバナマックス対応のクレーンが納入された。これらはコンテナ2個吊り3列対応でZPMC製である。
44	C.S.	2008.11	マニラ国際コンテナ・ターミナルに新鋭RTGを4基投入	マニラ国際コンテナターミナルに新鋭のPTGが4基投入され更に8基が発注されている。これらのクレーンはNoel Crane System China製でGPSを用いた自動操縦装置と自動位置把握システムを備えている。5段積みである。
43	C.S.	2008.11	ZPMCのクレーン製作に発注者側の技術者が立会い	ハンブルグ港に設置するZPMC製の5基のガントリークレーンについてターミナルオペレータのHHLAの要求発注仕様書が満足されていることを確認のためコンサルタントに上海のZPMCの建設ヤードでクレーン建造の指揮する業務を発注し、日々の業務進行の監督と検査立ち会いをさせた。
42	I.F.W.	2008.10	英仏海峡トンネルの火災の復旧が始まる	英仏海峡トンネルで発生した火災の片付け作業が開始され被災した自動車用列車が現場から引き出されている。化学薬品用タンクローリーからの漏れ出しと爆発という見方は弱まっていて火災の原因は未だ明らかになっていない。
41	I.F.W.	2008.10	コンテナに落雷	コンテナ船上のコンテナに落雷し稲妻が走っているこの衝撃的な写真はコンテナ輸送情報社の写真コンテストで第1席を獲得した。厳正な審査を経て瞬時の現象をタイミングよく捉えた、この写真が受賞した。
40	C.I.	2008/09/29	コンテナ船(10,000TEU以上)発注状況(2008-07)	
39	W.C.N.	2008.08	ジャクソンビルでコンテナクレーンが倒壊	ジャクソンビルでコンテナクレーンが突風により逃走し隣接クレーンに激突し両クレーンとも倒壊し玉突きされた3基目は軽微な損傷だった。当日は強風のため荷役作業は中止していたが転倒防止装置は固定していなかった。
38	C.S.	2008.08	2007コンテナ取扱量トップ100港	2007年コンテナ取扱量15位はシンガポール港、2位は上海港、3位は香港だった。10位までに中国港湾が4港入っていた。東京は27位、横浜は29位だった。取扱量の伸びでの1位は上海、2位はシンガポール。
37		2008/08/01	ロッテルダム港マースフラクテ2プロジェクト	

2008年	海外雑誌名	発行年月	タイトル(日本語訳)	記事の内容
36	C.S.	2008.07&08	サウサンプトンに新鋭クレーン	DP Worldサウサンプトンは2基の22列対応のポストパナマックスガントリークレーンを導入した。英国ホンダもDP Worldサウサンプトンが最新鋭機械や技術に投資して操業能力を高めていることを歓迎している。
35	I.F.W.	2008.07	拡大主義者の港湾が大型船の受け入れ体制を整備	バーミアン湾公社は米国東海岸のターミナル運営者のうちで拡大主義者の一つとされており同行者の大水深埠頭は浚渫工事後了りで大型船の受入体制が整っている。同港は26列対応のクレーンを装備しており将来の超大型コンテナ船にも対応可能である。
34	I.F.W.	2008.07	最大級船舶のための大型橋梁の持ち上げなど、ニューヨーク・ニュージャージー	ニューヨーク・ニュージャージー港公社は同港の将来の発展のため水深の増大、埠頭に隣接した鉄道ヤードの新設、連絡道路の改良など多額のプロジェクトを推進中である。ベイヨン橋の桁下空間を大きくするための橋の持ち上げ工事も同プロジェクトに含まれる。
33	I.F.W.	2008.07	オランダ・ドイツのコンテナ輸送の動き	オランダ、ドイツの港湾は各々、混雑緩和のために取り組んでいる。ロッテルダムではコンテナ積み替えターミナル計画がECTでは内陸ターミナルとネットワークの構築、空コンの設置距離、見入りコンテナの装置期間の制限、ユーロゲートでは外港ターミナルと内陸ターミナルの連携で対応しようとしている。
32	I.F.W.	2008.07	サウサンプトンが上昇気流に	DP Worldサウサンプトン・ターミナルは昨年のコンテナクレーンのレール改修工事やクレーン倒壊、更に他のクレーンの安全性点検等でターミナル能力が減少した。しかしターミナルの諸問題が解決し2基の新しいクレーンが供用開始され業績が向上してきた。
31	I.F.W.	2008.07	カルマー社の省燃料・環境調和型ストラドル・キャリア	カルマー社は世界で最初の環境調和型のハイブリッド式ストラドルキャリアを発表した。コンテナを降下時や減速時に発電し燃料を30%以上節約できる。本機では1台あたり年間CO2排出量を50t以上減少可能。
30	I.F.W.	2008.06	DP Worldの拡大路線に減速なし	DP Worldはドバイの2つのターミナルでコンテナ取扱量を伸ばし更に将来は大規模な拡大計画を持っている。DP Worldは世界中に広くターミナルを持っておりヨーロッパ、中東、アジアで取扱量を伸ばしており将来は更なる拡大路線を加速させようとしている。
29	C.I.	2008/06/13	ポスト・パナマックス船現況(2008-4現在)	
28		2008/05/20	SOx技術基準	
27	W.C.N.	2008.05	メクリフト社が新コンテナ・ムーバーを製品系列に	フィンランドのメクリフト社は新しい低価格のコンテナムーバーを商品化した。本機は強固なフレームと2個の後輪で構成され空コンおよび実入りの20~45ftのコンテナを伸縮可能なフレームで取り扱う。伸縮、昇降、幅調整はトラクタからの油圧で駆動・操作される。
26	W.C.N.	2008.05	コンテナ・クレーンのトップ・メーカーZPMCが第2位のSPMPを吸収	ZPMCは元々SMPMから分離独立したが両者はコンテナクレーンの中国国内および国際市場で激しく競合し特にSMPMはZPMCより約40%も安い価格で受注していた。両者の持株会社であるCCCCは子会社間の破格的な内部競争を止めさせるため両者の合併を決めた。
25	C.S.	2008.05	PSAが79基のRTGを調達	韓国のDoosan社はシンガポールのPSAから79基のRTGを受注した。これらはPSAのバルパンジャンターミナルの新バースで供用され燃料消費を抑えるエネルギー節約装置を装備しており環境に配慮したものとなっている。
24	C.S.	2008.05	ヤード・クレーン受注状況(2008年またはそれ以降の納入予定)	ヤードクレーンの最近の状況を見るとRMGが、より多く採用されており特に新たに開発される大規模ターミナルにおいて、その採用が著しい。2008年以後、全体で1,063基が発注されRTGが744基伸び率は15%に対しRMGは289基伸び率は158%であった。
23	C.S.	2008.05	APMとZPMCが基本合意書に調印、RTGの調達で	オランダを本拠地とするコンテナターミナル運営会社であるAPMターミナル社は同社が世界中で展開するターミナルで使用RTGをZPMCから調達することの合意書に調印した。APMターミナル社は既に200基以上のクレーンをZPMCから調達している。
22	I.F.W.	2008.05	フライホイール技術がガントリークレーンの省エネに	Vycon社はリゲン・フライホイール技術をガントリークレーンでの実証試験でガントリークレーンの燃料代を節約に有効であると考えている。荷重の巻上げ巻下げサイクルで再発生するエネルギーを補足するものである。
21	C.I.	2008.05	世の中にはこんな光景もあります(1)	コンテナ船から壊れ潰れたコンテナが今にも落下しそうになっている。
20	I.F.W.	2008.05	コンテナ輸送の需給はほぼ好ましい状況にある	長距離コンテナ輸送の市況は適正なバランスが維持されている。西行きと東行きの貨物量の不均衡、低速航行、輸送距離の増大により定期的寄港の維持のため、より多くのコンテナ船を各運航ループへ投入する必要が生じ、このことが過剰な供給を吸収することになっている。
19	I.F.W.	2008.05	「ゆっくり行こう大海原」は船舶にとり賢い動きだ	荷主および港湾企業は船社が船舶の運航速度を低減することを歓迎している。運行速度を40kphから35kphに低減しても輸送にかかる日数が2~3日に増えるだけで燃料消費を減らし結果として運行費用を節減できるため。
18	I.F.W.	2008.05	コンテナの全数秤量は大問題だ	先週ロンドンで開催された第10回世界海運会議でコンテナ全数秤量に関して、いろいろな意見が出されたが全数秤量を実施すると作業効率と生産性を低下させコスト増加となるため実施は見送られるべきとの意見が出ている。

2008年	海外雑誌名	発行年月	タイトル(日本語訳)	記事の内容
17	I.F.W.	2008.04	3輸送方式ターミナルがデュースブルグに開設	CMA CGMとNYKはドイツのデュースブルグに船舶、鉄道、道路の輸送手段を持つ3輸送方式ターミナルを開設した。ルール川からライン川に合流する地点にあり内陸物流を進展させ中央および東ヨーロッパを対象とした広域ヨーロッパ輸送ハブの構築を目論む。
16	I.F.W.	2008.04	タンジール・コンテナ・ターミナルへコンテナ・クレーン5基、ZPMCが納入	ユーロゲート・グループのモロッコにあるタンジールコンテナターミナルに5基のZPMC製コンテナウレインが納入された。クレーンは重量1,680tアウトリーチ65mで65tの荷重を吊り上げられる。
15	C.I.	2008/03/31	10,000TEU以上のコンテナ船の発注状況(2008-1現在)	
14	C.I.	2008.03	ポスト・パナマックス船現況(2008-1現在)	2008年1月現在、世界ポストパナマックスコンテナ船は稼働中は5,000～8,000TEU未満が167隻で最大で8,000～10,000TEU未満が140隻で2位であった。発注済みは12,000TEU以上が102隻と大型化が顕著であった。
13	I.F.W.	2008.03	ECTで保証処理時間以上に待たされたトラックに補償金	ロッテルダム港のECTターミナルは同ターミナル内において夜間トラックの処理時間が保証処理時間(コンテナ個数と関係する蔵置ブロック数により45～75分の間で設定)を超えた場合、運送業者は最大40ユーロの補償金を受け取れる。
12	C.S.	2008.03	2007年ヤード・クレーン納入実績	2007年には全世界でメーカ16社が総計794基のヤードクレーンを納入し、その内RTGは670基、RMGは124基であった。メーカー別ではZPMCが273基(34.4%)で1位だった。最近では総数で2005年が711基、2006年が1039基、2007年が794基であった。
11	I.F.W.	2008.03	WWL系の船社・大型車輛運搬船を8隻発注	Wallenius Wilhelmsen Logistics系の船社が大型車両運搬船8隻を韓国の大宇造船と現代重工業に4隻ずつ発注した。船の長さは288mで8,000台の車両を積み込める。
10	I.F.W.	2008.03	フェリクストウ港(英国)でクレーン倒壊	3月1日にフェリクストウ港を風速35.8m/sの強風が襲い係留していたZPMCのクレーン5基を積載した船(Zhen Hua 23)の係留が外れ岸壁上の2基のクレーンを倒壊させた。船に積載されていたクレーンは1基のみ損傷し他は無事だった。
9	I.F.W.	2008.02	韓進海運アルヘシラスへ進出	アルヘシラスの港湾当局は韓進海運に同港の第3のコンテナターミナルの建設・運営を認可した。第1期計画のターミナルは水深18.5mの岸壁を2バース有し年間取扱能力は180万TEUでジブラルタル海峡に近く大西洋から地中海への入口として理想的な場所である。
8	W.C.N.	2008.02	サウサンプトン港クレーン倒壊(続報)	この事故はコンテナを陸揚げするためにブームを降下させる操作時に発生しクレーンがコンテナ船の上にAフレームと共に倒壊した。ブーム破損の原因は不明であるが過去のクレーン事故においてブームラッチ(作動不良)がブームの事故原因になった例は多い。
7	I.F.W.	2008.02	クレーン倒壊でサウサンプトン・コンテナ・ターミナル大混乱	サウサンプトン・コンテナターミナル(SCT)におけるコンテナクレーンのブームが8,500TEUのコンテナ船上に倒壊したことにより数隻のコンテナ船がSCTへの寄港を取り止めた。この遅延屋コンテナが別の港へ行ったりで陸運会社、荷主に多くの損害が発生し事態の収拾には時間がかかりそうである。
6	C.S.	2008.01&02	岸壁コンテナ・クレーンの納入実績(2007)	Cargo System誌は2007年岸壁コンテナクレーンの納入実績が321基で2006年の362基を若干減少と発表した。ZPMCが219基の68%を納入した。定格加重70t以上が25%の80基で2006年の13%より増加しコンテナを多数個を吊れるクレーンへの需要が高まっているとみられる。
5	I.F.W.	2008.01	大型重量物を陸上輸送	コレット運輸社は巨大な鋳造品を英国の道路でシェフィールドからグレーまで運搬した。鋳造品は長さ48m幅6.7mでトレーラと合わせた重量は500tであった。
4	I.F.W.	2008.01	浅瀬のコンテナ船が離礁	ドーバー海峡で座礁していたエバグリーン・グループが備船していた8,000TEUコンテナ船が満潮時に3隻のタグボードで浅瀬から引き出された。その後、同船は安全な泊地に移動し船級協会の検査を受ける。コンテナ船の全ての貨物は異常はなく浸水も発生していない。
3	I.F.W.	2008.01	ブレーマーハーフェン港へコンテナクレーン5基納入	ブレーマーハーフェン港のストロムカイ・コンテナターミナルに重量2,000tアウトリーチ62.5mの新コンテナクレーンが4基納入され1基は今月中に引き渡し予定である。これらは8週間前に上海を出発した。
2	ICHCA Information Paper	2008	落雷によりコンテナ船上の港湾作業員が軽傷(ICHCAInforPaper)	コンテナクレーンが吊り下げられた籠の中でデッキ上のコンテナのロック解除作業中の作業員が落雷により軽傷を負った。当該ターミナルは定期的に天候予測を受ける契約をしており当局は落雷が予想される時はクレーン運転手は作業を中止し運転室に留まるよう求めている。
1	IMO NEES	2008	Nox技術基準	国際海事機関(IMO)は新しく搭載されるエンジンのNoxを3段階で低減強化する規定を作成した。第1段階は17g/kw、第2段階はエンジンの運転規定に応じて15.5～21.8%低減とし第3段階では第1段階の80%低減を目標としている。

2007年	海外雑誌名	発行年月	タイトル(日本語訳)	記事の内容
25	C.I.	2007/12/26	世界における積載容量10,000TEU以上のコンテナ船の発注状況	2007年12月現在の発注状況
24	I.F.W.	2007.12	英国よもっと港湾整備を頑張れ	英国は港湾整備需要に対して遅ればフィードバックが寄港しない国になる危険を抱えている。輸入の増大と船舶の大型化は英国港湾の施設整備にとって大きな試練を与えている。なおヨーロッパの港湾も立ち後れのおそれがある。
23	I.F.W.	2007.12	コンテナ・ターミナルのオーナー・オペレーターになりませんか	玩具メーカーのLego社が港湾運送業における優良企業の社長が持つべき全ての施設・機械を備えた商品(玩具)を発売した。この玩具は5才以上の人を対象としており日常の社会における海事活動を再現するものである。
22	I.F.W.	2007.12	ロッテルダム港の年間コンテナ取扱量が1千万TEUを突破	ロッテルダム港はヨーロッパの港湾で初めて年間コンテナ取扱量が1千万TEUを突破した。この画期的な出来事を
21	W.C.N.	2007.11	53フィート・コンテナ外洋航路へ	米国内では輸送では一般的になっている53ftワイドコンテナは外洋航路の厳しい条件に耐える強度を備えていなかったが新しい鋼製「オーシャン53」コンテナは外洋航路の荷重に耐えるよう主要部分が補強されている。標準の40ftコンテナと比較して53ftコンテナは60%容量増加して荷主はコンテナ数を集約できる。
20	W.C.N.	2007.11	中国はカボタージュ規制を緩和するか?	中国政府は海外の業者の船や飛行機が中国国内での運行を禁止している「カボタージュ」の規制緩和を検討している。ただし、この規制緩和はフィードバックの効率向上、輸送コストの削減、貨物取扱量の増大等の利点もあるが国内船社が困らない施策になりそうだ。
19	C.S.	2007.11	ダブル・トロリー・クレーンがターミナルを支える	ヨーロッパ・コンテナターミナル社のユーロマックス・ターミナルの第1期工事では岸壁に12基の大型ダブルトロリークレーンが設置される。また岸壁-ヤード間にはハイブリッド式AGV(自動搬送台車)がスタックにはASC(自動スタッキング・クレーン)が設置される。
18	I.F.W.	2007.11	パナマ運河の拡張プロジェクトが轟音とともに発進	2014年開通を目指してパナマ運河の拡張プロジェクトが着工された。供用後は12,500TEU積みのコンテナ船スエズマックスのタンカー、ケーブサイズのばら積み船が就航可能となり世界貿易と海運業界に非常に大きな貢献をすると期待されている。
17	I.F.W.	2007.11	53フィートコンテナ太平洋を処女横断	中国と米西海岸間の太平洋横断輸送でAPLの53ftコンテナが使用され始めた。大型コンテナを採用することにより荷役効率の向上、陸上の貨物の過密の解消、得意先の出費の削減等の経済的メリットが期待されるという。
16	C.S.	2007.10	APMが米国における自動化ターミナルの先駆者に	APMターミナル社はバージニア州ハンプトンロード、グリーンフィールドに米国で最先端の自動化コンテナターミナルを開発した。この新ターミナルは岸壁水深15.2mでスーパーポストパナマックスクレーンを備え最大級のコンテナ船を受入が可能である。また米国で初めて自動化された30基のRMGを使用し操作にも高度に省人化されている。
15	C.S.	2007.10	ブローニョが高速船のハブ港へ	フランスのブローニョ港は高速ローリー船の誕生により、そのハブターミナル計画の推進を図っている。この高速船プロジェクトはブローニョ港とスペインおよびノルウェー港を高速ローリー線で結ぶことを目的としている。
14	I.F.W.	2007.10	中国南部の新しいハブ港が始動	珠江の河口にある広州港に新施設広州大洋門コンテナターミナルが開業した。水深15.5mの岸壁と23列対応コンテナクレーンを持つ6バースを有している。広州港は年間660万TEUを取扱中国本土第5位である。
13	W.C.N.	2007.09	ひとつのトロリーに2台のスプレッダーを装備したクレーン	PSAはコンテナ2個吊りアウトリーチ22列対応のコンテナクレーンに30基をZPMCに発注した。このクレーンは容量80tで1台のトロリーに2台のスプレッダーを装備し40ftコンテナ2個を別々のスプレッダーで吊り上げるもの。
12	I.F.W.	2007.09	パシルバンジャン・ターミナル、PSA	PSAはパシルバンジャンターミナル建設中の13バースを2009年供用開始予定で、その時点で3,500万TEUの取扱容量となる。当ターミナルの今月初から8ヶ月の取扱量は1,780万TEUで伸び率は13.7%となる。
11	I.F.W.	2007.09	スエズ・マックスコンテナ船が一般化	シーパン社は8隻の13,000TEU積みスエズ・マックスコンテナ船を発注し2011年に引き渡しとなりCOSCO海運に12年間リースされる。一方リックマー海運は4隻の13,000TEU積みコンテナ船を2010年引き渡しで契約しAPモラー・マースク社に10年間借り上げられる。
10	I.F.W.	2007.09	陸電は環境の救世主か	船舶が係留時にディーゼル発電機を運転し続けると港湾発生する浮遊物質(窒素化合物、硫酸酸化物を含む)の20%を占める。陸電実施により、その90%純減できると推算され、まさに「陸電は環境の救世主」と見られるが発電所で放出される二酸化炭素の増加で相殺されてしまうとする見解もある。
9	I.F.W.	2007/09/18	インドの主要港湾は経済成長に準備	インドの南部(チェンナイ港)と西部(ムンバイ港)で大規模港湾プロジェクトが進行中である。前者は水深18mまで浚渫して15,000TEU積の超大型コンテナ船に対応し2017年には500TEUを取り扱う。後者は航路を12m~14m、更に14.5mに増深する。
8	韓国海事新聞	2007.09	釜山港コンテナ埠頭クレーンを電気駆動方式へ転換検討経費節減および環境汚染予防効果期待される	釜山港湾公社(BPA)は釜山港の主要な埠頭運営会社のヤードクレーン(RTGC)のエネルギー供給体系を既存の油類から電気へ転換させる方を積極的に推進中だ。BPAはエネルギー節約効果により、この投資は3年後には回収可能で、その上環境汚染予防にも寄与すると見ている。
7	C.S.	2007.08	2006年コンテナ取扱量上位100港および荷役関係ニュース	Cargo System社がまとめた2006年のコンテナ取扱量上位100港である。

2007年	海外雑誌名	発行年月	タイトル(日本語訳)	記事の内容
6	C.S.	2007.07&08	ハンブルグ港EUROGATEターミナルに22列対応クレーン5基上海ZPMCが納入	ZPMCはEurogate社のハンブルグターミナルに5基のポストバナマックス船対応のガントリークレーン(全高80m、重量1,800t、ジブ長さ62m:22列対応)を納入した。
5	I.F.W.	2007.07	米国タコマ港に新コンテナ・ターミナルオペレータはNYKの子会社	米国西海岸のタコマ港に新コンテナターミナルの建設計画が発表された。年間1.8百万TEUのコンテナを取り扱うこのターミナルはNYKの子会社である優先ターミナル・タコマが運営する。
4	I.F.W.	2007.07	座礁したコンテナ船再浮上	コンテナ船MSC Napoli(62,000t、4,419TEU)は英国南端沖で嵐の際に損傷し海岸から1マイル沖合に意図的に座礁させられた。その6ヶ月後に種々の作業により再浮上した。
3	I.F.W.	2007.07	上海の過密には早期予約あるのみ	上海のコンテナターミナルでは中国政府の輸出奨励金制度の変更、上海税関のシステム変更等のため既に荷捌き能力が限界状態にある状況から更に混雑度を悪化された。そのため荷主は2~3週間の先行予約が必要となった。
2	C.S.	2007.05	コンテナ・ターミナルの能率向上とコンテナ位置探査システム	コンテナターミナルでは運用の最適化のためTOS(Terminal Operation System)が導入されており、その基礎となるコンテナの位置どの荷役機械が何の作業をしているか等の情報をGPS、RTLS、PDS等のシステムを使って得ている。
1	C.S.	2007.05	コンテナ3個吊りから4個吊りへ	上海のコンテナクレーンメーカーZPMCは40ftコンテナを4個同時に吊り上げ可能なクレーン(a quadruple 40ft Crane)の設計可能性を検討している。同社は既に40ftコンテナ3個吊りクレーンを開発し製品ラインアップしている。

2006年	海外雑誌名	発行年月	タイトル(日本語訳)	記事の内容
5	C.S.	2006.12	ゴットバルド社が第五世代モービル港湾クレーンの1号機を納入	ゴットバルト社は、この度、第5世代のMHC(Mobile Harber Crane)1号機(吊り上げ能力150t)をC.Steinweg社にハンブルグ港ユニバーサルターミナルに納入、稼働開始した。同クレーンは895KWのディーゼル発電を持つ8軸式で操縦が極めて容易で遠隔操作システムを備えている。
4	C.S.	2006.12	米国政府が貨物自動車のX線検査に関する研究を発注	米国政府はテロ対策のためZ Backscatter Van(移動しながら貨物や車両の外側からX線で内部を検査可能な車両)の強化型の研究・開発をX線検査技術の専門企業に2.2百万ドルで発注した。
3	C.S.	2006.12	ロサンゼルス港が透視検査を開始	ロサンゼルス港とロングビーチ港は2007年1月には24台の透視検査車が稼働する。これにより、より両港で取り扱われる自動車およびコンテナを透視検査することができるようになる。
2	C.S.	2006.12	米国西海岸の港湾が環境対策に積極参加	ロサンゼルス港とロングビーチ港は両港の港湾施設(船舶、鉄道、貨物自動車、港湾荷役施設、港湾小型船舶)から大気排出される窒素酸化物(Nox)を45%以上硫黄酸化物を52%以上2011年までに低減することを目標とした20億米ドルのプロジェクトを打ち出した。
1	C.S.	2006.12	岸壁コンテナ・クレーンの納入実績(2006年)	2006年における岸壁コンテナクレーンのメーカー別納入実績の上位5社はZPMC244基(67.2%)、SPMP22基(6.1%)、Liebher18基(5.0%)、Fant/Regg/NOel15基(4.1%)で実にZPMCが全世界数の2/3を占めた。また地域別出荷数は中国国内135基(37.3%)、ヨーロッパ69基(19.1%)、アジア(中国以外)60基(16.6%)、中東・紅海地域47基(13.0%)、北米15基(4.1%)であった。